

戦略の策定にあたって

藤沢市は、江の島や湘南海岸などの海浜環境をはじめとして、引地川や境川沿いの斜面緑地、谷戸など多様で良好な生態系が存在し、それら自然から豊かな恵みがもたらされています。

しかし、経済の発展やグローバル化に伴い、かつては地域の自然と密接なつながりがあった市民の暮らしは、地域の自然から遠ざかり、その恵みを日常的に感じる事が難しくなっています。

その一方で、今でも私たちの暮らしは、食料や水、気候の安定など、自然からの豊かな恵み（生物多様性を基盤とする生態系サービス）によって支えられており、自然との『つながり』は決して途切れることはありません。

「生物多様性地域戦略」とは、2008年（平成20年）に施行された「生物多様性基本法」に基づいて、地方公共団体が策定する「生物多様性の『保全』及び『持続可能な利用』に関する基本的な計画」です。

藤沢市では、これまでも生物多様性の『保全』については、「藤沢市緑の基本計画」や「藤沢市ビオトープネットワーク基本計画」を策定し、取組を進めてきましたが、生物多様性の『持続可能な利用』については、新たな課題として取組を進める必要があります。

また、これまでも2度にわたり実施した「藤沢市自然環境実態調査」の結果から、市域全体でも生物多様性への4つの影響の拡大が判明している一方で、生物多様性の意味や重要性が十分認識されていないといった課題もあります。

このような課題の解決に向け、本市は「藤沢市生物多様性地域戦略」を策定し、本戦略の取組を通じて、市民一人ひとりが生物多様性について自分のこととして考え、関わることで、藤沢市における生物多様性の『保全』と『持続可能な利用』の実現を目指します。

表紙写真／蓮とカワセミ（鶴沼蓮池）
富岡真里子

裏表紙写真／「江の島のニケ」海食崖に立つビャクシンの古木（江の島）
永由勝